

富 監 第 83 号
令和2年 1月15日

富田林市喜志財産区議会
議 長 尻 谷 保 喜 様

富田林市監査委員

中 川 元

花 岡 秀 行

村 山 理 恵

平成30年度富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により、審査に付された平成30年度富田林市喜志財産区特別会計歳入歳出決算（事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書）及びその他付属書類について審査した結果、次のとおり意見を提出する。

富 監 第 83 号
令和2年 1月15日

富田林市喜志財産区管理者
富田林市長 吉 村 善 美 様

富田林市監査委員

中 川 元

花 岡 秀 行

村 山 理 恵

平成30年度富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により、審査に付された平成30年度富田林市喜志財産区特別会計歳入歳出決算（事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書）及びその他付属書類について審査した結果、次のとおり意見を提出する。

平成30年度 富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見

第 1. 審査の対象

平成30年度 富田林市喜志財産区特別会計決算

第 2. 審査の期間

令和元年 8月19日から令和元年 9月25日

第 3. 審査の方法

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書が関係法令の規定にしたがって作成されているか、又、決算計数が正確であるか等を確認するため関係諸帳簿及び証拠書類を照合し、併せて予算の執行が適正かつ効果的に行われているかどうかを主眼として審査した。

第 4. 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成され、決算の計数も関係諸帳簿及び証拠書類と符合し正確であり、本年度の決算を適正に表示していることを認めた。

第 5. 決算総括

喜志財産区特別会計決算額は、

歳 入 8,048,349 円

歳 出 8,048,349 円で歳入歳出差引額は0円はである。

本年度の決算額は、前年度に比べ歳入で3,544千円(78.7%)、歳出で3,752千円(87.3%)のそれぞれ増加であった。歳入では主に繰越金と使用料及び手数料がそれぞれ減少したものの、財産収入と繰入金がそれぞれ増加となり、歳出では議会費が減少したものの、総務管理費が増加となった。

財産収入に関し、大阪府富田林土木事務所が行う近鉄長野線鉄道高架事業において、粟ヶ池の施設管理者である喜志土地改良区の協力が不可欠であることから、大阪府富田林土木事務所、富田林市長(喜志財産区管理者)、喜志財産区議会、喜志土地改良区の4者で確認書を交わし、喜志財産区議会、喜志土地改良区の2者から土地賃貸借料の分配についての申し入れ書が提出されていた。

富田林市では、その経過から「近鉄長野線鉄道高架化工事のための借地に関する土地賃貸借料配分に関する取扱い要領」を制定し、当財産区と喜志土地改良区とで「覚書」を締結された後、喜志土地改良区より粟ヶ池施設管理者負担金請求書及び実績報告書を受けて、負担金を支出しており、公共工事に伴う収入の分配金に関して所定の手続きをされていることは、財産を適切に管理されており問題はないと考える。

今後、財産区財産事業の取組みには地方自治法第296条の5第1項の主旨に則り、常に良好な状態を維持し、適切に管理され、効果的な運営に努められるよう引き続いて望むものである。

第 6. 収支の状況

1. 歳 入

決算額は 8,048 千円で、前年度と比較すると 3,544 千円の増加となり、予算現額に対する収入率は 84.2%である。各款別における歳入の状況は表 1 のとおりである。

[表 1] (単位:千円・%)

区 分	30年度			29年度 決算額	増 減	前年度比
	予算現額	決算額	収入率			
使用料及び手数料	10	8	80.0	9	△ 1	88.9
財 産 収 入	4,172	4,170	100.0	1,914	2,256	217.9
繰 入 金	5,169	3,662	70.8	2,368	1,294	154.6
繰 越 金	210	208	99.0	213	△ 5	97.7
諸 収 入	1	0	0.0	0	0	-
計	9,562	8,048	84.2	4,504	3,544	178.7

財産収入の増は、粟ヶ池仮線路用地等の財産貸付収入 2,258 千円が増加したことによるものである。

2. 歳 出

決算額は 8,048 千円で、前年度と比較すると 3,752 千円の増加となり、予算現額に対する執行率は 84.2%である。各項別における歳出の状況は表 2 のとおりである。

[表 2] (単位:千円・%)

区 分	30年度			29年度 決算額	増 減	前年度比
	予算現額	決算額	執行率			
議 会 費	1,045	949	90.8	984	△ 35	96.4
総 務 管 理 費	8,217	7,099	86.4	3,312	3,787	214.3
選 挙 費	0	0	0.0	0	0	-
予 備 費	300	0	0.0	0	0	-
計	9,562	8,048	84.2	4,296	3,752	187.3

総務管理費の増は、需要費 21 千円の減になったものの、積立金 2,464 千円、負担金補助及び交付金 750 千円、工事請負費 594 千円等のそれぞれ増によるもの、また、議会費の減は、議員報酬 33 千円及び交際費 2 千円のそれぞれ減によるものである。

第 7. 財産に関する調書

1. 公有財産

(1) 土地

30年度末現在高は118,015.90㎡であり、30年度中の増減はなかった。

(2)建物

30年度末現在高は325.00㎡であり、30年度中の増減はなかった。

2. 備品

30年度末現在高は0台であり、30年度中の増減はなかった。

3. 基金

年度当初の基金総額は、30,065千円で、30年度は財産貸付収入4,170千円、前年度剰余金208千円、使用料収入8千円による積立金が4,386千円であったが、基金取崩し金が3,662千円あったことにより、30年度末現在高は724千円増の30,789千円であった。